

映画「グエムル」～ 観客動員数もグエムル(怪物)！

ソウル駐在員事務所

秘書 洪承元

映画「グエムル(日本語訳:怪物)－漢江^{ハンガン}の怪物－」、皆さんはどんなストーリーの映画だと想像しますか？ 韓国で今最も話題の映画を見て来ました。

在韓米軍が捨てた毒性の溶液が漢江に流れ込み、突然変異した魚が巨大な怪物に成長、ソウルの街は一大パニックに陥ります。主人公家族の大事な娘が連れ去られ、政府でも軍隊でも警察でもない家族の力だけでその怪物を……

環境問題の深刻さを喚起させることから出発したと言うこの映画、漫然とした官僚主義や社会の無関心と不条理が、漢江の怪物以上の「怪物」だと暗示しているようにも感じられます。単なる怪獣映画だけにとどまらない深い家族愛をテーマとしていることが、幅広い層の観客から共感を得ている理由でしょう。

今年の初め、映画「王の男」が観客動員 1230 万名という驚異的な記録(国民の4人に1人が観たことになります)で韓国映画史を塗り替えたばかりのこの夏。映画「グエムル」は、製作期間3年、カンヌ国際映画祭の好評等で話題だったとはいえ、公開から 21 日という歴代最短日数で観客 1000 万人を突破しました。このスピードでは、最多観客動員数を誇った「王の男」を超えるのは時間の問題だと言われています(8月20日時点)。

韓国映画の観客動員ランキング

順位	タイトル	動員観客数	公開年度
1	王の男	1230 万	05 年 12 月
2	ブラザーフッド	1174 万	04 年 2 月
3	グエムル－漢江の怪物－	1112 万 (8 月 20 日現在)	06 年 7 月
4	シルミド	1107 万	03 年 12 月
5	チング(友へ)	818 万	01 年 3 月

しかし、こうした大ヒット映画の興行に、現在の韓国映画関係者が素直に喜ぶわけにはいかない懸念材料もあります。

今年の 7 月から、国内映画産業を保護するために一定日数以上は韓国映画を義務的に上映するスクリーンクォーター制度が縮小されました。韓国映画の義務上映日数は、既存の 146 日から半減し 73 日に縮小されたのです。

以前からスクリーンクォーター制度の縮小に関する論議はありました。しかし、ここ数年間の韓国映画の水準の向上、観客動員力等を見て国内映画市場を開放しても十分な競争力があるということと合わせ、米国との FTA 締結の前提条件として政府が縮小に踏み切りました。

これに対し韓国映画界は、資本力にもものを言わせるハリウッド映画に席卷されると反発しています。特に、米国はこの制度を非関税障壁とみなしており、FTA が締結されればさらなる縮小、撤廃を求めてくるでしょう。

今後韓国映画は、国に守られた現状維持は望めませんし、今以上に海外作品を受け入れざるを得ません。一映画ファンの立場から言えば、韓国映画とハリウッド映画のそれぞれの特徴を生かして競争し、良い作品を作ることで一人でも多くの映画ファンを増やし、互いに興行実績を伸ばしてほしいと願っています。



ソウルの映画館（当行ソウル事務所撮影）